

東京神学大学の教育の特徴

福音を宣べ伝える人と教会の業に仕える人が 共に学ぶ“召命共同体”

「召命」とは、「神さまの召し」「呼びかけ」です。

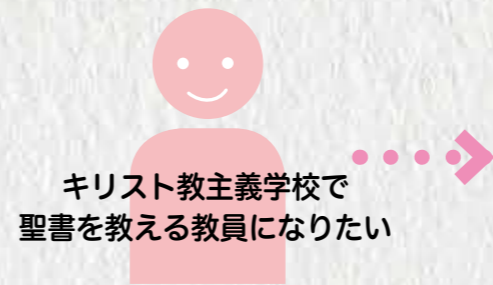
ここで学び、教えるすべての者が、自己実現を目指すのではなく、神さまの招きと呼びかけに応じて神学の学びを志し、将来伝道者となるという決断を与えられたということです。

また、多様な応答として、キリスト教主義学校の教員、信徒として教会に仕える長老、役員や牧師の配偶者のためにも神学教育の場を提供しています。

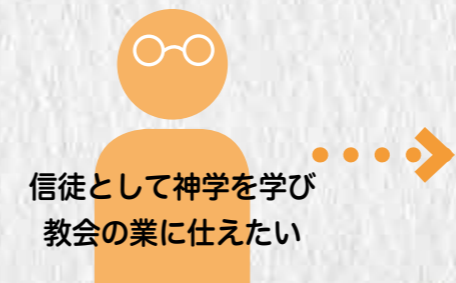
教師と学生が互いに祈りつつ、学び、神学と召命を確かなものとしていく学び舎は、“召命共同体”にふさわしい場所となっています。



将来伝道者を志す方は、入学試験に際しては召命が厳しく問われます。学びへの興味・欲求だけでなく、福音の伝道者として神に召されているのか。キリストの血の代価として罪から買い取られたことを心に刻み、これまでの自分を捨て去って主イエス・キリストに献身する決意があるかどうかという問いです。伝道者を目指して神学を追求するには、学問を究める理性と神と向き合う霊性がひとつとなることが大切だからです。また、学部から大学院までの一貫した神学教育プログラムを提供しているため、ほとんどの学生が、学部1年生から入学した場合は学部4年間と大学院2年間の計6年間、学部3年生から編入学した場合は学部2年間と大学院2年間の計4年間かけて神学を学びます。

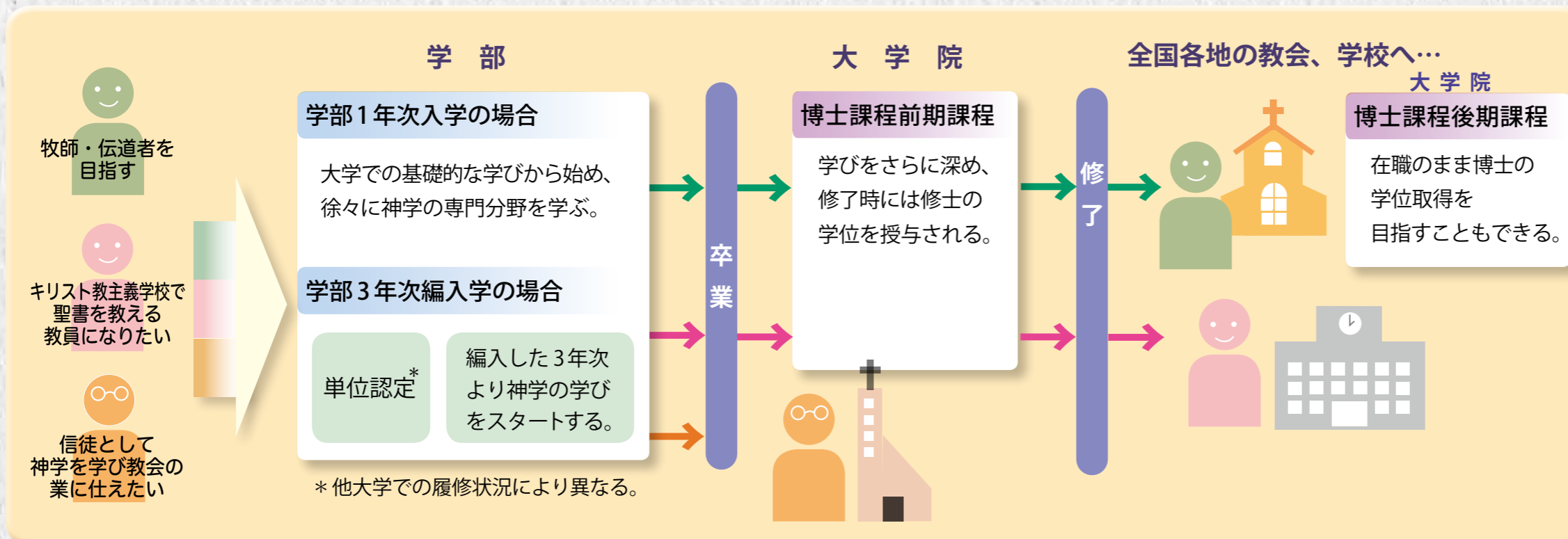


キリスト教主義学校に派遣されて若い魂に福音を語ることも、伝道者や牧師の働きです。本学の大切な使命の1つとして、プロテスタントのキリスト教主義中学校・高等学校における宗教科・聖書科の教師（教務教師）を養成することが挙げられます。本学では、神学教育プログラムと並行して教育職員免許状取得のための課程があり、これまでも多くの教師を送り出してきました。彼らの学校での働きの中から、次世代を担う受洗者、献身者が起こされています。



東京神学大学は、多くのプロテスタント諸教派の神学校が合流してできた合同神学校（Union Seminary）です。神学教育機関として各神学校の伝統を引き継ぎつつ、日本のプロテスタント諸教会が総力を注いで育んだ高度な神学教育を提供しています。そのために、東京神学大学は「教会による、教会のための大学」と呼ばれ、神学生のみならず教会の信徒のためにも門戸を広げ、教会に仕えるための神学を学ぶ場が用意されています。

■一貫した教育プログラム



教育職員免許状（宗教）の取得が可能

本学の教職課程は1954年に設けられ、今日まで多くの優れた聖書科教師を輩出してきました。免許状は、教会付属幼稚園の園長となる際にも有効に用いられています。さらに、免許状を取得した卒業生の多くは、教会と良い関係を築き上げ伝道に貢献するだけでなく、キリスト教教育を通して公教育にも貢献してきました。本学の教職課程は、キリスト教主義学校において教育と伝道の業に励みつつ、建学の精神を実質的に担う教師を養成することを目標としています。

- ・中学校教諭一種免許状（宗教）
- ・高等学校教諭一種免許状（宗教）
- ・中学校教諭専修免許状（宗教）
- ・高等学校教諭専修免許状（宗教）